

第2回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

日 時 平成28年9月2日(金) 午後6時30分～午後7時52分

場 所 本庁舎3階 第一会議室

出席委員 9人

委員長 渡 邊 嘉二郎 委員

副委員長 小 川 順 弘 委員

委 員 鴨 下 明 子 委員 橋 田 壤 志 委員

松 本 敏 朗 委員 小 宮 貴 大 委員

本 間 紀 行 委員 沼 崎 明 大 委員

天 野 建 司 委員

事務局職員

企画政策課長 三 浦 真

企画政策課企画政策係長 古 賀 誠

企画政策課企画政策係主任 高 野 修 平

企画政策課企画政策係主事 齋 藤 彬 子

傍 聴 者 0人

(午後6時30分開会)

◎渡邊委員長 ちょうど時間になりましたので、第2回小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を開催したいと思います。

次第はお手元にあると思いますけれども、前回欠席された委員の方々の自己紹介と、本日の主題である小金井市まち・ひと・しごと総合戦略における施策の検証。それから、次回以降の開催日についてということになっています。

次第に基づきまして進行させていただきたいと思います。前回来られなかった本間さん、小宮さんにちょっと、本間さんのほうから自己紹介をお願いします。

◎本間委員 本間紀行と申します。第1回は出席できなくて大変申し訳ありません。小金井市商工会の代表でお伺いさせていただいていると思います。私、仕事のほうは不動産の仕事をしておりまして、武蔵小金井の北口で本間不動産という不動産の仕事をしております。何かこの委員会を通じてお役に立てることがあればと思いますが、微力ながら何かご協力できればと思いますので、皆様、よろしく願いいたします。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。小宮さん、お願いします。

◎小宮委員 小宮と申します。よろしく願いいたします。私のほうは連合という労働組合が集まった組織の代表として、連合の中でも三鷹市・武蔵野市・小金井市の3市を持っている連

合多摩東部第一地区協議会というところで副議長をやっています、そちらから来てございます。労働者の立場としていろいろと、私もこの戦略の検討委員会も出させていただいて、今回推進委員会でもお世話になることになりました。私も微力ながら小金井市のために意見等々を出していきたいなと思っていますので、皆さん、よろしくお願いいたします。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。ほかの方は前回、自己紹介は終わっています。これで終わりたいと思います。

◎渡邊委員長 それでは、本日の主題である「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証についてということで、審議してまいりたいと思います。事務局から何かご説明がありますか。

◎古賀企画政策係長 それでは、事前に送付させていただいております資料4「まち・ひと・しごと創生総合戦略 評価シート（取りまとめ）」をご覧ください。前回の委員会で配付させていただいた評価シートに、新たに「委員評価」枠及び「委員評価取りまとめ（案）」を追加させていただきました。これから、本日及び次回の計2回にわたって、委員の皆様方に「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証を行っていただきたいと思います。

続きまして、皆様のお手元に「小金井市人口ビジョン 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の59ページの抜粋を配付させていただいておりますので、あわせてご覧ください。

検証につきましては、基本目標ごとに各30分ずつとさせていただきます。

事務局といたしましては、委員の皆様方に特にご意見等がある指標に絞って議論いただきたいと考えておりますが、仮に全基本的方向についてご議論いただく場合、各10分ずつの時間配分となります。

基本目標ごとに議論していただきたい指標をご指定の上、自由にご議論いただきたいと思います。

説明については以上です。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。事務局からの説明に対して何かご質問等ございますか。なければ、実施の効果の検証議論について進めていきたいと思います。

この資料4にあるように基本目標のまとめの一番上のところ、基本目標1となっています。何枚かめくると、基本目標2、それから3があって、基本目標1の下には評価シート1から6まで、7から11まで、12から14までございます。同様にして基本目標2「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」の下には評価シート15から17まで、18から21まで、それから22から24までとなっております、皆様方のほうから委員の評価について○、△、×と。コメントがある場合には、○と×は特にコメントしてくださいということでございましたけれども、ご意見をいただいて、それが「評価シート（取りまとめ）」の名前の書いてある欄で、一番右端が事務局のほうで皆さんのご意見をまとめてこういう文章にしたというものでございます。

今、事務局からございましたように、基本目標1・2・3、それぞれ30分くらいをめどに議論していきたいということでございます。どうやりますかね。一応ざっと1枚目からめぐってまいりましょうか。

では、基本目標1ということで、1ページ目のところで、渡邊と松本さんと橋田さん、天野さんからコメントをいただいて、それをまとめたのが一番右の欄で、「計画どおり進捗しているものの、都市計画の変更がなくとも、様々なことを想定して検討を続けることが望ましい」という格好で整理されているということでございます。ちょっと私が手厳しいコメントを書いたものですから、それが反映されていてまずかったかなと思ったりしているんですけど、いかがですか、1枚目のシート。こんな感じでまとめてもらえるということでいいですか。多分ざっといって、どこか引っかかることを少し議論するということになると思います。

次の裏のページのところで、これは私と松本さんからコメントがあって、まとめていただいたのは、「結果としては、目標値に到達していないためC評価となっているが、次年度に向けての課題・展望の取組に関しては、素晴らしく、おおむね順調に推移している」という格好でまとめたということなんですけれども、いかがでしょうか。いいですね。

それでは、評価シート4、3枚目です。これも渡邊、松本さん、橋田さん、沼崎さんからコメントをいただいて、「現状、目標を達成しているため、おおむね順調に進捗している。困難な課題もあると思われるが、平成31年度の目標値である100%に向けて課題を明確に整理し、事業に取り組みたい」という格好で、大体皆さんのご意見が反映されているんじゃないかと思えますけど。よろしいですか。あったら遠慮なく言ってください。

評価シート5、これは市内の小売業の年間売り上げ、販売ということで、渡邊、小川さん、松本さん、沼崎さんからございまして、「市内小売業の実態を踏まえつつ、支援組織との協働や市民懇談会といった活動の具体化を図る必要がある」という格好でまとめていただいております。この辺はいかがですかね。経済センサスの調査ということで。何か、とりあえずよろしいですか。後からまた戻って、ここも議論があるかもしれない。

評価シート番号6、センター卒所者らの、引き続き市内で事業実施する事業者の割合ということの評価。これも渡邊、松本さん、橋田さん、それから沼崎さんからコメントをいただいております。「適切な『課題・展望』認識のもと、実施されている。センター卒所者の市内定着率は総合戦略において重要な指標であるため、更なる工夫を凝らして増加する取組を行うべきであるという意見がある一方、入居者の市内定着に固執する必要はないのではないか、という意見もある。指標に係る目標達成に向け、企画部門・都市建設部門等との連携強化を進めるべきである」という格好で整理しています。私は「更なる工夫」で、必ずしも、「いいじゃない、ほかで働いても」という意見もあったということで、両論併記みたいな格好です。

それから、評価シート7でございます。小金井市の観光協会のホームページのアクセス数ということで、これはたくさんの方からコメントをいただいております。渡邊、松本さん、鴨下さん、それから橋田さん、本間さん、沼崎さん、天野さんということで、いろいろありますけれ

ども、「平成31年度の目標を達成するために、市内在住者だけではなく、市外の方にも認識していただく必要がある。ホームページへのアクセス数増加を各種イベントへの来場数増につなげる工夫が必要である」という格好で整理されております。

評価シート8は、市ホームページ内における市内に関する情報を発信している他団体へのリンク数ということで、これもたくさんコメントをいただいております。「ホームページは市の『顔』であるため、デザイン性と機能性に優れたページを作してほしい。そのためには市内にある大学専門家との協働が効果的であり、市長からの情報発信も増やすべきである」という格好で整理がされております。私の文章が大分入っちゃっていますけれども。

評価シート9ということで、桜まつり・阿波おどり大会・お月見のつどいの来場者数の合計ということであります。これは非常に多くのコメントをいただいております。各自のコメントは大変ですけども、事務局の取りまとめだけ。「天候の影響を避けて通ることはできないが、市外からの来場を促すための広報や新たなイベントとの連携を図るなど、天候に左右されて目標が達成できなかったということがないほどのイベントを創造するべきである」という格好で整理がされております。

一応読んでいきますね。評価シート10は市民交流センターの有効区分数における貸出区分数の割合指標です。これも多くの方からコメントをいただいております。稼働率86%。「施設の稼働率が高い点は評価できる一方、その使われ方の質の評価も重要である。どのような方々が利用されているのか中身を精査していく必要もあり、ブランド力の向上も進める必要がある」という格好でこれについてはまとめられております。

それから、評価シート12、市民協働支援センター準備室で受けた相談件数ということでございます。それで、「準備室の努力は評価できるものの、市民の自己実現の場として行政の仕事のお手伝いは、単に市役所における人手不足解消と本質的に異なる。今後は、相談内容を分析し、新たな動きを支援できる体制を整備していく必要がある」と。ちょっと手厳しい取りまとめですけども、これは私のことだから。すいませんでした。

評価シート13、まだ基本目標ですね。国際交流事業に参加した人数について、これは渡邊、松本さん、鴨下さん、橋田さんからコメントをいただいております。「国際交流の意義は、ローカルな文化の相互理解であり、この意義が具体化すれば結果として国際交流事業に参加する人数は増える。また、国際化で重要なことの一つは、小金井文化の世界への発信であることから、地元企業（料理店）などと協力して国際交流を図れるイベントを増やしていく努力をしたらもっとよい」と。

それから、評価シート14、まだ目標1ですけども、審議会における構成委員のうち、公募市民が占める割合ということです。これは私と松本さんからコメントがあって、「審議会での公募市民の参加には限界があるが、一方で公募された委員は市に対する貢献の実感があると思われる。なお、アンケートや公聴会などの併用も有用ではないか、とする意見もある」ということでございます。

◎三浦企画政策課長 委員長、一回ここでカテゴリ1が終了するので、区切っていただけますでしょうか。

◎渡邊委員長 これでカテゴリ1が終了ですね。今、朗読、まずい声で読ませていただきました。この評価シート1から14、そつなくまとめていただいていると思うんですけども、何かコメント、特にこういうことをつけ加えたほうがいいんじゃないのとか、何かございましたか。何かございましたら、ご発言いただきたいんですけども、いかがでしょうか。皆さんのご意見を結構うまいぐあいに整理されてまとめてはいますけれども、さらに何かコメントがあればお願いしたいと。

いいですか、こんなもんで。じゃあ、30分かける予定でしたけども、全然早く終わってしまつて。いいですか、進めて。

次が評価シート15、基本目標2ということで、「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」という基本目標に対して、基本的方向1「子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実」と。これが15、16、17。それから、基本的方向2として、「子どもの育ち・学びのための環境の充実」ということで18から21までと。そして、基本的方向3「小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現」ということで22から24までということでございます。

では、評価シート15を読ませていただきます。これは保育所への利用の申し込みをしているが、定員超過等により利用できない児童数ということでございます。これも皆さん、多くの方からコメントをいただいております。それを取りまとめていただいたのが、「待機児童の95名減少は評価できるものの、国会で話題になった『メール』の思いを持つ人は少なくないと思われる」と。メールというのは例の日本何とかという。「潜在的数を想定して評価するとともに、国の政策も変わりつつあるが現状のペースでは目標達成が難しく、強力に取り組むべき課題である」という格好で整理されております。国のほうも党派を超えてこれをやろうという方向になっているみたいだから、こういう格好でいいのかなと思うんですけども。

評価シート16、認定こども園の設置数でございます。これも渡邊、小川さん、松本さん、橋田さん、沼崎さんからコメントをいただいております。「目標に向けて取り組んでいることは評価できるが、子ども・子育て会議の答申などとの関連性を重視する必要がある」というコメントになっております。

17、小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会の加入団体数・要保護児童対策地域協議会の参加機関数ということでございます。4名の方からコメントをいただきまして、取りまとめとしては「ネットワーク協議会の参加数だけで評価すべきではなく、各団体の活動や取組を確認し、それらの取組を支援するほうが重要なのではないか。成果が見える化してもらえば更に良い」ということでまとめられております。これが基本的方向1の評価シートです。

次に、評価シート18というのが基本的方向2「子どもの育ち・学びのための環境の充実」というところでありまして、1週間における冒険遊び場開催回数ということで、たくさんあり

ます。僕がたくさん書いています。すいません。「小金井の特徴として市内に3大学のキャンパスを構え、さらに1専門学校を持つことがある。これら教育機関との協働は極めて重要である。市として積極的にこれら教育機関に働きかけるべきであり、地方創生のポイントの一つに地域における教育を忘れてはならない。地方によっては一大学であってもほしいと願望している地方もあり、小金井市は恵まれている環境にある。また、児童学童の遊び、運動の場として小金井公園を活用できるよう工夫するなど、質的にも更なる充実が必要である」とまとめてあります。

次が19で、放課後子どもの教室の推進委員会形式による実施件数ということで指標がございます。「生涯学習課と教育委員会との意見交換を十分に実施することが重要。一方、学校側は様々な理由からためらう場合もあろう。十分に議論して、両者が納得のいく方法やあり方を確立すべきである。ポイントは本当に子どもたちを育む施策かどうかであり、今後とも各教育機関との連携を密に行っていただきたい」という。これもちょっと私、手厳しいことを書いて、それを反映されております。

評価シート20は東京学芸大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数ということです。「東京学芸大学との協働支援にかかわらず、参加校が2校とはいかがなものか。『子どもを育む』という視点において取組を強化すべきであり、東京学芸大学とは別に農工大学等の協力を得ることも検討する必要がある。他方、大学の研究資料収集のための調査などにならないように注意する必要もある」ということでまとめられております。

それから、評価シート21、基本的方向2の最後、地域貢献にかかわろうとしている児童生徒の割合は、ボランティア活動に取り組んだ児童生徒の割合とするということで、この割合を評価指標にしていると。これもいっぱいあります。何か私のやつが、後になればなるほど文章が長くなってすいません。「ボランティア活動に取り組んだ児童生徒の割合の向上を目標としているが、数字を伸ばすことのみを目標にするのではなく、質・量ともに充実を図る必要があり、子どもたちに取組の意味・重要性を浸透させてからでないと、この数字は伸びないし、伸びたとしても意味のないものになってしまうことが懸念される。なお、学校が独自に行っている教育課程上の社会貢献活動もボランティア活動として視点をあてるべきである」と。これはちょっと何か違うことのようにも読める。活動として何かすべきであると。こう整理されております。

いかがですか。ご発言は後でいいので、コメントがあるところは忘れないように丸をつけておいてください。

評価シート22、基本的方向3で、「小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現」ということで、しごとづくりに関する相談件数、創業相談件数ということでございます。渡邊、小川さん、松本さん、鴨下さん、橋田さん、沼崎さんがコメントを。「相談件数に関しては、目標値を上回っており、評価ができる。創業相談も重要だが、創業のためのセミナーや研究会も積極的に取り組むべきである」としてまとめられております。

評価シート23、審議会への女性の参加率、各年度の4月1日現在の行政委員会及び審議会における女性委員の割合ということで、「数値だけで評価をするべきではないが、女性の割合が多くなれば意見が多様化すると考えられる。また、多摩地域で活躍する女性は多いと考えられるため、その掘り起こしができていないことが参画率が向上しない要因のひとつとも考えられるので女性の登用方法について再考する必要がある」というコメントになっています。

この基本目標の今、最後の評価シート24までということで、これは男性職員の育児休暇取得率ということでございます。渡邊、松本さん、沼崎さんから、「公務員と民間は環境・条件が違う中、市役所の男性職員の育児休業取得率を評価の対象とするべきではないと考えられる。反面、行政が育児休業の取得率向上を図り、もって社会全体に浸透するためにも職員の意識を醸成する必要はある」という格好で整理されております。

以上が24までだから、基本目標2「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」ということです。この件、何かご意見はございませんか。

とりあえずいいですか。じゃあ、最後まで行って、後にしましょうか。

それでは、基本目標3ということで、「時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち」ということで、基本的方向として「誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進」ということの中の、高齢者自立支援住宅改修給付事業の給付件数を指標として、「高齢者の目に留まりやすい箇所に条件別の事例集などを配布・周知するなど、広報方法を工夫するなど、目標達成に向けた取組をする必要がある」ということでまとめられております。

それから27。C o C oバスの利用者数ということで、総合的見直しによる利用者数ということでございます。これも渡邊、小川さん、松本さん、鴨下さん、橋田さん、沼崎さんからコメントをいただいています。「個別の課題を洗い出し、優先順位をつけて実施することが肝要である。必要度に応じて見直しを行い、現状における最適化を図る必要がある。利用者数の多い路線と、少ない路線でバランスをとり、本数や時刻表の見直しを行ってはどうか」という格好で、皆さんのご意見がまとめられているということです。

次が評価シート28。自主防災組織の数ということで、市内で町会・自治会等の地域組織が自主的に結成した防災組織の数ということです。これも4人からコメントをいただいて、「高齢者が担う傾向が強くなってきている現状に鑑み、地域にある会社・事業所などとの連携を図っていく必要がある。市単位ではなく、地区単位で消防などの協力を得ながら定期的に防災訓練を行うなど、地区単位での取組を浸透させることが重要であると考えられる」ということでまとめられていると。

それから29。刑法犯の認知件数ということで、1月から12月までの刑法犯の認知件数（警視庁発表）ということで、これも渡邊、松本さん、鴨下さん、橋田さん、沼崎さん、小宮さんから、「『配布したら終わり』ではない活動を定着させるような何かを行えないものか。犯罪件数の量的な評価だけでなく、その質的な変化を捉えるべきである。地域の防犯力向上を図ることのできる活動を、他の施策と合わせて行えるような方法を模索する必要がある」というこ

とでまとめてございます。

30は認知症サポーター数ということで、認知症サポーター養成講座受講者数ということで指標の説明。「受講者数の増加は評価できる。今後は関係団体との連携を深めながら、認知症サポーター養成講座を幅広い年代の方に受講してもらえよう働きかけを検討していく必要がある」とまとめられております。

31は地域密着型サービス事業所数ということで、細かい点がいっぱい書いてありますのでご覧いただくとして、4人からコメントがあります。「近隣他市のやり方も参考にしつつ、地域特性に応じた必要な事業を開設・運営できるよう事業者のフォローに尽力していく必要がある」ということでございます。近隣他市というのは私が書いたんです。私が住んでいる調布市の。

次が、評価シート32ということで、「誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現」ということで、小金井さくら体操の参加者数ということを指標にしてございます。3名からコメントをいただいて、「さくら体操の取組自体を評価する。関係機関との連携を含め、継続した活動をしていく必要がある」という格好ですね。これは皆さんのコメントを包含しているんじゃないかと。

33、これは65歳健康寿命の延伸、伸ばすという。個人個人が自らの健康について意識できるような働きかけを行政が行う必要があるとまとめているわけですね。

それから34。スポーツ教室・スポーツ大会の参加者数ということを指標にしている。「スポーツ教室・スポーツ大会で、参加者数を増加させるためにどんな取組をしたのか整理する必要がある。また、スポーツはそもそも自主的に行うものであって、個人が安心してスポーツを出来る環境であったり意義を理解してもらおうような企画も検討していきたい」という格好でまとめてあります。

基本的方向2の最後、35ということでございます。これは高齢者いきいき活動講座参加率という指標に対してのコメントです。「高齢者の生きがい・やりがい作りの観点から、この取組は評価できる。内容・テーマが重要になってくるので、参加率だけではなく利用者の満足度の充実も図る必要がある」という格好でまとめられております。

これで第3目標の基本的方向2の「誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現」の評価でございます。

最後、基本的方向3の「生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成」ということで評価シート36、これも多くの皆さんからコメントをいただいております。渡邊、松本さん、鴨下さん、橋田さん、本間さん、沼崎さん、小宮さん。「ボランティアセミナー参加者が平成26年度の倍以上となっており、その点は評価できる。今回は40代女性の参加者が多かったが、今後は多様な世代を取り込んでいけるような取組が求められている」というコメントでございます。

37、図書館における住民1人当たりの図書貸出冊数でございます。「休館期間があつたに

もかわらず貸出冊数が高い数値となっていると評価する意見と、貸出冊数増加が標記目標の実現につながるイメージが無いという意見があった。今後は時代の変化に対応した電子媒体で読める書籍の対応を、費用対効果の観点も含めて検討していく必要がある」ということでコメントいただいております。

最後、38番ということで、これは公民館の平均稼働率ということの指標です。渡邊、松本さん、鴨下さん、沼崎さんからコメントをいただいております。「施設・設備の老朽化に対応しつつ、これまでの稼働率を維持しながら公民館活動の質を保ちたい。一層満足度の高い社会教育施設とするために、利用者の内訳（新しい利用者の割合の変化）は継続して確認する必要がある」ということで整理されております。

一応、私のほうで、皆さんのご意見と事務局で集約した取りまとめ（案）を読ませていただきました。まず、基本目標1、評価シート1から14に関して、何かもう少しこれを入れたほうがいいんじゃないのというようなことがあればお願いしたいと思います。いかがですか。結構そつなくまとめられているんですけどね。なかなかいいんじゃないかなと。

先ほど事務局からのご発言もありまして、例えばこの評価シート以外のところで、全体的方向についての議論があれば、10分ずつの時間配分もごございますので、基本目標1「小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」ということについて、何か全体的な観点からコメント、あるいはご意見があれば賜りたいんですけども、いかがですか。

副委員長、何かございませんか。

◎小川副委員長 子ども・子育て関係でシートの15番なんですけれども、今日の多分夕刊ぐらいに出ているかと思うんですが、世田谷区が一番達成率が高くない状態なんですけれども、小金井市は民間等を含めて待機児童は、数字の上では入れないのが5名という形になっています。豊かでない財政の中でこれだけ解消しているというのはかなりの努力だろうなとは思っています。

それからもう1つ、評価シート28番なんですけれども、自主防災組織等の数。実質的に自主防災組織の、組織の数は増えているんですが、その実質的内容で、ここにも書いてあるように、高齢者の方が担うような組織で、実際に何かあったときにはとても大変かなというような気がしています。それで、ここにあえて「補助金の配分を含め」と書いたんですけども、やっぱり昼間いる会社ですとか事業所の方たちが動けるような組織に少しずつしていったほうがいいのかと思っています。ここで、交通安全もそうなんですけれども、自主防災組織、三浦課長、ありますよね。

◎三浦企画政策課長 はい。

◎小川副委員長 自衛隊とか病院とかいろんな方が集まってやっている会議があるんですが、それだけの組織がありながら、地元がなかなか1つになっていかないというところが難しいなと感じております。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。じゃあ、1人ずつコメントを聞いていきますか。

鴨下さん、どうですか。何かこれ、全体で何かということ。

◎鴨下委員 そうですね。きれいにまとめてあり、ほかの皆様の意見がすごく勉強になりました。ありがとうございます。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

じゃあ、橋田さん。

◎橋田委員 特にないんですけども、この指標を達成したらどうなって、この基本目標につながるのかみたいなのが見えづらい部分が幾つかあったので、そこが漠然としているんですが、もうちょっとはっきり書かれていたら、評価とかもっとしやすかったかなと思います。

◎渡邊委員長 確かに小金井しあわせプランを全部読めと言っても、なかなか読めないよね。

◎橋田委員 そうですね。

◎渡邊委員長 小金井しあわせプランを読むと結構書いていることは書いているんですけどね。

◎橋田委員 はい。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

松本さん、いかがですか。

◎松本委員 まとめは非常にうまく、異を唱えることはありません。若干全体的な話に入っているですか。

◎渡邊委員長 はい。

◎松本委員 「基本目標 前文」があって3つの「基本目標」が立てられ、それをそれぞれにブレイクダウンして3つの「基本的方向」が定められ、それぞれに施策を対置するとともに、その達成度を見るために、あるいはそういうのを促進するためにK P I 38項目が選ばれているわけですね。今、橋田さんから意見があったんですけども、その基本的方向性と選ばれた38項目がうまくリンクしているかどうかという点が気になりました。自分なりにざっと38項目を仕分けしてみたんですけども、一定の指標になり得るかというのが14個、間接的な効果はあるが指標としてはいかがかなというのが17個、それから、そもそも指標として取り上げる意味があるのかなというのが7個ぐらいあるんじゃないかと思いました。

ただ、この前も言ったんですけども、何かをやっていくということ自体には必ずそれなりに意味があるので、今回の作業としては一切×をつけることはしませんでした。ただ、本当にこの38項目の達成に向かって市や関係者が一生懸命に努力していくことに意味があるのかどうかという点で考えると、多々益々弁ずということではなく、やはりコストと効果の対比というのもよく考えていく必要があるのではないかと思います。

翻って考えてみると、「基本的方向」とK P I項目との関係性をいう前に、そもそも「基本目標」というのがきちんと設定されているのかなという点がちょっと疑問としてあります。「基本目標」として3つ並んでいます、もうちょっとそれぞれの中身を明確にしておかないと、「基本的方向」としてうまくブレイクダウンされないのじゃないかなと思います。

先日、まち・ひと・しごと創生大臣、山本幸三さんがテレビ番組で「国として何を掲げてやっていくんだということを一言で言えば、当該地域の所得のアップだ」と言われていました。経済力だけアップして、それでいいのかどうかというのはまたいろんな議論があるんですけども、まち・ひと・しごと創生戦略を作らなければいけない背景としては、やっぱり人口がこのままどんどん減って行って、放っておいたら大変なことになる、私の故郷の米子市なんて多分人口は半分になるんでしょう、そういうふうに地方がどんどん人口が減って疲弊していき、都会に出てくる人数も減って行って、都会でも人口がたかさんいて税金もたかさん入っているところが傷んでいくと。それでは困るから国で旗を振って、それぞれの地域で考えてやっていこうという話になってきているので、必ずしも大臣が言われているのがいいとは思いませんが、少なくとも人口減に対してどう向き合うのかというのが1つと、それからやはり何はともあれ、経済力というものをしっかりしていかなければその地域は維持できないわけですから、この2つにきちんと向き合うというのが必要だと思うんですよね。そのことがこの「基本目標」でどのように謳われているのか。これを読んでいけば、例えば「長期的には移住・定住につなげることを目指します。」という文言もあるので、全く書いてないわけじゃないんですけども、もう少し明確に意識すべきものをちゃんと掲げていく必要があるのではないのかなというふうに思います。それから、「基本目標」間の整理が必ずしも十分ではないので、この「基本目標1・2・3」が今のようなKPI38項目をうまく誘導していただくの看板になっているかという点で疑問を感じます。

だから、片方で評価作業を行いながら、もう一方で全体的に見直していくという作業をやっていく必要があるんじゃないのかなと思います。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。その責任は検討委員会委員会委員長の私が。

◎松本委員 いや、何かそう言うと、委員長のそういう話になっていくんですけども。

◎渡邊委員長 いや、ただね、そうではなくて、このまち・ひと創生で、内閣府からのあれで、根本は首都圏からの人口をなるべく減らして地方に回そうという考え方なんですよね。小金井市は首都圏にあるもんですから、そうおいそれとは乗れないねという話があるというのと、もう1つはやっぱり小金井市が実際やっている現状とそれをどう合わせ込むかということの悩ましきなんですよね。でも、言われたとおりのところはいっぱいあると思います。

◎松本委員 多分大きな整理としては、経済力、人口力といった力をつけるというのが1つ、幸せな生活が送れるというか、豊かな生活が送れる環境を提供するということが2つ目。2つ目はさらに分かれて、我々みたいな病気とか、そういうのが身近に迫っている高齢者と、それから子どもをこれから育てていかなければいけない、大変だと思っている働く人、サラリーマン。更にブレイクダウンすればその子ども、学童児童とか、あるいは大学生とか、それぞれのありようというのが出てくると思いますね。

それから3つ目としては、行政のあり方だと思うんです。マイナンバーが入ってきますから、行政手法というのは根本的に変わっていくはずで。人口が減っていけば、当然その仕事の仕

方や中身・分量は変えていかざるを得ないでしょう。行政の問題については他のところでやられていると思うので、このまち・ひと・しごと創生に入れるのが適切かどうかわかりませんが、頭の整理としてはそういう大きな三本柱の中で、じゃあそれをどういうふうにやっていくのかというのを絶えず考えていかないといけないんじゃないのかなと思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

本間さん、何かコメントはありますか。去年の副委員長。

◎本間委員 いろいろ私自身の知識が乏しくて、なかなか評価できないものが多く、コメントが少なくなって大変申し訳なく思います。やっぱり「まち・ひと・しごと」ということでは人のところが一番大変なのかなという印象は持ちました。この評価シートのことは、すいません、不慣れで、特に私は意見はございませんので、なるべくついていけるようにしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

小宮さん。

◎小宮委員 そうですね。私も検討委員会委員をやらせていただきまして、厳しいご意見もいただきながらあれなんですけども、この「まち・ひと・しごと」という、こういう委員会を立ち上げてやる市民の方がこういう声を出していくことこそが本来の目的であるのかなと私も思っています。やっぱりこういう会を開かないと、先ほどの意見みたいな、小金井市をどうしていこうという意見が絶対出てこないだろうと思っていますし、まず、やはり小金井市の職員の方、ないし住んでいらっしゃる方というのは、自分の市をよくしたいというのは誰しも、勤めていればそう思いますし、住んでいればより一層そう思うところがあると思いますので、やはり小さなことからコツコツとではないですけども。検討委員会でも数字が出しやすい評価になっているねというのは、やっぱり我々委員の中でも議論はあったんですよ。でも、やはり数値的なもので見ていかないとなかなかわかりづらいという部分もあって、こういう目標になってしまったというのは、私の中では致し方がなかったかなとは思っています。

ただ、その中でも路線変更ではないですけども、やはり数値の推移、1回決めてしまった目標を変えるというのはなかなか難しいとは思いますが、そこにやはり新たな肉づけをしていくということは絶対できるはずだと私は思いますので、また少し意見を出していきたいのと、あと、国際交流のところとかだと、私は何かこういうことを、うどん打ちなんかやっていたんですね、小金井市で。ただ、小金井市はうどんが何か有名なんですか。何かうどん打ちとかが国際交流なのかというところとかも、小金井文化を発信ということで委員長も書かれていたと思うんですけども、小金井市特有のもので何か国際交流みたいなものができるのかなと思ったりもしてまして、私は前回もあれなんで府中市、お隣の市に住んでいるということであれだったんですけど、府中ですとやっぱり大國魂神社という歴史のある神社があって、そこでやっているくらやみ祭なんていう、ものすごく地域から集まってくると、何かああいうのもやっぱり国際文化交流になるんだろうと思っていてまして、そういう部分で小金井市独自の何かと

いうのも少し、うどん打ち、フットサル、確かにわかりやすいというか、なんていうのもあるだろうと思って、その中に小金井市の何かというのが、そういうやった中で交流ができる、例えば何かちょっとしたもので渡せるとか、なんていうのが何か必要になってくるのかなとは思っています。

その中でも小金井市さん、私どもも労働組合というところで予算を見たりとかいうこともやっていますので、なかなか限られた予算の中でいろいろやっていかなくちゃいけないというところでやっぱりその、うまく、費用対効果とかいう言葉も出てきますので、充てるべきところにしっかりと充てられるような進捗をぜひやっていただければ私も応援のしようがあると思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。この評価シートについては何かコメントはございますか。

◎小宮委員 私は特段、評価シートについては。まとめとしてはこのような感じでいいのではないかなとは思っています。また、これから来年度とかが、やっぱり1年目なので、進みというのなかなか見えづらい部分もあるのかなと。来年度の進みぐあいと、またここでの意見交換の中での皆さんのご意見とかが、今後の評価の仕方とか数値とかいうところにどう反映されていくのかというところを、しっかり我々としては意見を出していくといった点はこの委員会のあるべき姿なんだろうと思っていますので、1回目はこういうもの、こんな感じなのかなというのが私の評価の考え方です。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

沼崎さん。

◎沼崎委員 評価の取りまとめという点では、うまくまとめていただいているので特に異論はございません。ただ、読み込んでいいる中で意見を言う時間がなかったので、4点ほどお話しできればと思います。評価シート6番のところで幾つか意見を出させていただいていますが、こういった創業支援施設の卒所予定者の市内定着率というのは比較的どこの自治体も課題に挙げていることかと感じています。ただ、今回の実績というのは悲観するものではないかなと思っています。私は市内定着というよりは、卒所された方のその後をやっぱりちゃんと後追いできるようにしておくことが重要かなというのが1点と、あと、市内定着を向上させていきたいと考えたときに、実際、具体的に「次年度に向けての課題・展望」の中で、市内定着に向けた支援や情報提供を実施すると書いてありますが、具体的にどういうことをやっていくのかというのが現状見えていないので、卒所した後の出口をどうやっていくのかというのはやっぱり明確にしておきたいというのがもう1点です。

2点目は、評価シート12番のところなんですけども、目標の中で市民協働支援センター準備室の相談件数というものを掲げていて、相談件数は増えていると思うんですが、この中で最終的な目標はおそらく「多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現」ということなので、相談件数115件の中で何か新たな連携がゼロ件よりは、相談件数が少なくとも何かし

らの連携が1件でも2件でも出てくることのほうがきっと効果は高いと思います。そのため、その中で相談内容の分析だとか、何かあったときの支援体制の整備というのが重要かと思いましたが、その辺を記載させていただきました。

あと最後、評価シート37番のところです。図書館における貸出冊数が指標になっています。私も聞いた話ですが、最近、地方にて図書館をビジネス支援の拠点にしているところが結構増えてきているというなお話を聞いておりまして、そのあたりも参考としてビジネスの新たな支援の拠点として図書館を位置づけるという考え方も入れてもいいのではないかとこのところが私からの意見になります。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。大体、でもここに反映されていますから。

天野さん、どうぞ。

◎天野委員 じゃあ、少しお話しさせていただきます。私は小金井の強みというのが3つあるとっていて、1つは緑、それから教育、教育というのは優秀な小金井の子どもたち、それから意識の高い市民力、この3つが小金井の強みとっています。それで、その3つの強みを意識しながら少しお話しさせていただきますと、基本目標1では今後小金井の魅力を発信したり、人口を増加したり、地域で交流したりという視点、目標なんですけれども、今後意識しなきゃいけないのは2020年オリンピック・パラリンピックに対する対応、こういった動きが小金井の魅力を発信することにつながったりとか、交流につながったりしますので、今後そういったものに注目していただきたいし、やっていきたいと思っています。

それから、基本目標2のところなんですけれども、ここに子どもが出てくるわけなんです。シート番号20というのがありまして、非常にこれは大事なところだと思っています。子どもたち、小金井の強みである教育、子どもと、それから大事な資源である大学との連携ということで非常に注目をしている指標なんですけれども、副委員長の小川先生が×ということですね。学校の負担にならないように注意しなきゃいけないということを書いていただきました。今、非常に学校のほうがいろんなことで忙しいという部分もあって、先生方が子どもたちと係われないようなこともあります。そういった意味で注意しなきゃいけないということを小川先生に書いていただいたのかなと思っています。後で、できれば小金井南小学校の校長先生だった小川先生からこの辺のところを注意したほうがいいのか、何か成功事例みたいな、いい事例みたいなこともあったらお聞きしたいと思っています。

それから、基本目標3のところは安全・安心という点なんですけれども、今、地域の方々は災害とかいったことに対して非常に興味をというか、強い関心を持っていらっしゃいます。そういった意味で、人と人のつながりだとか、地域のつながりとか、そういう防災という観点からも一層強くしてやっていかなければいけない視点なのではないかと思っています。自助、共助、公助なんていう言葉もあるんですけれども、さらに近助というようなことも非常に大事になってきますので、こういった目標、こういった視点を踏まえて、この計画についても取り組んでまいりたいと思います。

副委員長、何かあればお願いします。

◎小川副委員長 まず、今指摘のありました20番のところの大学との研究というところなんですけれども、大学が独立法人になってから、やはり大学のほうもこれだけのことをやりますというようなことを言って研究費をもらうという関係で、成果を出さなければいけないということで、学校との連携、小中高との連携をいろいろ重ねるところが多いなど。それから、同じ大学の中でも幾つか研究のテーマがあって、それぞれが学校に対して「こういうことをやりたいんだけど」というふうなことを持ってくる、出す側は1か所なんですけどいろいろあって、受ける側が1つというところが非常に辛いなというところがあります。

例えば調査もの、子どもに対してのアンケートをとりたいたいというんですけれども、出す側は「このアンケートだったら大体1時間もあればできるでしょう」と言うんですが、学校の中では年間指導計画の中できっちりと授業時間を作っている、その1時間をどうやって作るかというようなところがあったりするということなんです。今、本当に授業時間が厳しくなっていて、これからまた英語が入ってきたりすると一層厳しくなってくるなと思っているところなんですけれども、その中でも学校の先生方は本当に時間をうまく作りながらアンケートに答えたり、それから、そのアンケートをフィードバックしてもらうことで教育活動に生かしていくようなことは具体的にやっぱりあります。

具体的などころで言うと、例えば国語の問題で調査があって、自分の学校では例えば読み取りが弱いというようなことが数値の上で出てくれば、それを今度指導の中で読み取りのところに力を入れるような形のものを作っていこうねというようなことができるというようなことがあります。同じことは国の学力状況調査、いわゆる学力テスト、それから東京都の行っている学力状況調査、これは国のほうが6年生、都のほうが5年生なんですけれども、そういうようなところの傾向を見て、やはり教育に還元するということをやっています。そういう意味で小金井の先生方はよく頑張っていて、それに応えている子どもたちがいるんだろうなと思っています。

ただ、見ていまして、小金井は基本的には、例えばドリルで覚え込ませるとか、練習をいっぱいしてテストがいいようになるというようなことは基本的にはやっていないんじゃないかなと思っています。自分たちで考えさせたり、経験をさせたり、小金井の特徴である緑豊かな森の中で学習をさせたりというようなことの、経験の再構成をさせていくようなことがうまくいっているのかなと思っています。

それからもう1つ、ボランティア関係のことでいうと、学校の年間の計画の中でボランティアに係わることは本当にいろんな形で取り入れているんですね。それも市の中の活動として見ていただけるといいなというのがすごくあります。

それから、国際交流に関してもいろんな学校で、例えば留学生の方を招いて交流を持ったり、それから小金井南小学校なんかでは、私、モンゴルともかかわりがあったんですけど、モンゴルから年に5、6人、何週間か学校に来て一緒に勉強をしたりというようなことがあったり

して、そういう交流もあると。あと、国際交流でいうと、4年生が私たちのまち小金井という勉強をしたものを、留学生を招いて教室で発表するようなことをやったり、それは何年も続いていたりしているので、そういうような本当に草の根の国際交流もあるんだというところを、市民の方たちにわかっていただけるといいなと思っています。

◎渡邊委員長 ありがとうございます。一通り、この評価シートについてはうまくまとめられているということなので、これでよしとし、今、この評価シートにかかわって若干意見が出たので、もし事務局としてこれをつけ加えることができるんだったら、つけ加えていただくということではいけないのかなと思いますけれども。この評価について私がしゃべるととまらなくなりますから、やめておきます。

それで、そうすると、本日の主要議題の「小金井市まち・ひと・しごと総合戦略」施策の効果検証についてというものを、これで終わりにしたいと思います。よろしゅうございますね。

(「はい」と呼ぶ者あり)

◎渡邊委員長 ありがとうございます。

◎渡邊委員長 そうしますと、最後、次回以降の開催についてということで、事務局のほうで何かあればお願いいたします。

◎古賀企画政策係長 次回の日程ですが、幾つか候補日を示させていただき、その中から決められないかと考えております。候補日としましては、9月27日火曜日、9月28日水曜日、または10月3日月曜日を考えております。また、開始時間についても、今回と同様に18時30分からとするか、もしくは皆様のご都合により19時からに戻すことも可能と考えております。

事務局からの説明は以上です。

◎渡邊委員長 それでは、日程調整を行いますので、会議録はいったん休憩にします。

(休憩)

◎渡邊委員長 それでは、再開します。今回は、10月3日月曜日18時30分から、場所は開催通知にてお知らせいたします。今回はどんなことをやるんですか。

◎三浦企画政策課長 それでは、本日ご意見をいただいたところは若干事務局で修正をさせていただきまして、文言のほうは何かあれば正副委員長のほうと調整をさせていただきたいと思います。それを踏まえまして、もう1度皆様のほうに事務局の取りまとめのところをご覧いただいてご確認をいただくという作業が中心になるかと思えます。

◎渡邊委員長 わかりました。それでは、今日の会議はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

(午後7時52分閉会)